

「がん診療体制の質に関する調査」について理解を深める

- ①施設及び地域で参加するメリット
- ②地域で参加している他県の取組状況
- ③改善に向けての取組方法

「がん診療体制の質に関する調査」を活用した 各病院と地域のPDCAサイクルの構築

～調査継続の重要性と、地域として参画することの必要性～

水流（つる）聡子

東京大学 総括プロジェクト機構

Quality とHealthを基盤におくサービスエクセレンス社会システム工学総括寄付講座

特任教授

（工学系研究科 人工物工学研究センター 兼務）

若尾 文彦

国立がん研究センター がん対策研究所 事業統括

調査報告書

(2020年11月調査)

がん診療連携拠点病院における診療体制調査

国立がん研究センター研究開発費

「地域レベルで取り組む緩和ケアやがん薬物療法を含めたがん医療の質の改善に関する研究」（加藤班：分担研究 水流研究チーム）

加藤班分担研究者

水流聡子（東京大学 総括プロジェクト機構 「Quality と Health を基盤におくサービスエクセレンス社会システム工学」総括寄付講座特任教授）

国立がん研究センター研究開発費「地域レベルで取り組む緩和ケアやがん薬物療法を含めたがん医療の質の改善に関する研究」（加藤班）研究代表者

加藤雅志

（国立がん研究センターがん対策情報センターがん医療支援研究部長）

研究協力者

若尾文彦（国立がん研究センターがん対策情報センター長）

Version 1.0

2021年6月

東京大学 総括プロジェクト機構 「Quality と Health を基盤におくサービスエクセレンス社会システム工学」総括寄付講座
特任教授² 水流聡子

第9回

表 6-4-2 適合率概要(体制の有無, 質問票 A)

体制	01状態認識		02介入		03共通認識	総合点数
	01-01希望・理解度・社会的状態	01-02医学的状態・治療方針	02-01医療リソース	02-02診療指針	03-01状態・介入の共有	
都道府県がん診療連携拠点病院	66%	88%	93%	85%	94%	88
地域がん診療連携拠点病院+国立がんセンター	58%	79%	87%	65%	79%	77
拠点病院以外の病院	76%	89%	90%	69%	85%	85
埼玉県全体	67%	84%	89%	68%	83%	81

表 6-4-3 適合率概要(体制の運用, 質問票 A)

運用	01状態認識		02介入		03共通認識	総合点数
	01-01希望・理解度・社会的状態	01-02医学的状態・治療方針	02-01医療リソース	02-02診療指針	03-01状態・介入の共有	
都道府県がん診療連携拠点病院	79%	93%	98%	87%	95%	92
地域がん診療連携拠点病院+国立がんセンター	72%	94%	90%	81%	89%	87
拠点病院以外の病院	71%	95%	90%	83%	85%	86
埼玉県全体	70%	96%	91%	83%	86%	87

資料4

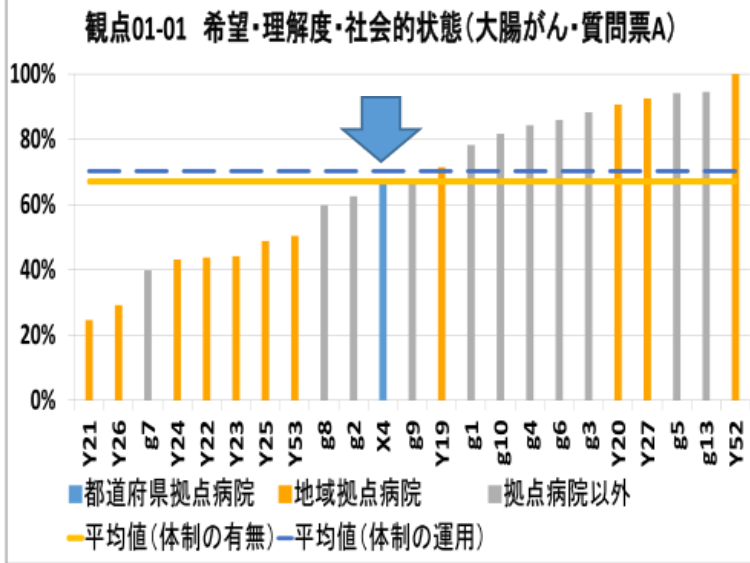


図 6-4-1 埼玉県(観点 01-01, 質問票 A)

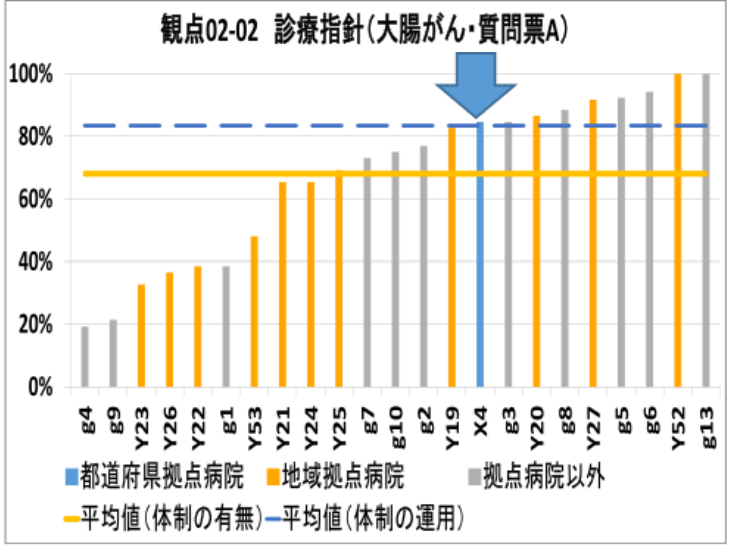


図 6-4-4 埼玉県(観点 02-02, 質問票 A)

第10回

第9回

資料4

表 6-4-2 適合率概要(体制の有無, 質問票 A)

	01状態認識		02介入		03共通認識	総合点数
	01-01希望・理解度・社会的状態	01-02医学的状態・治療方針	02-01医療リソース	02-02診療指針	03-01状態・介入の共有	
都道府県がん診療連携拠点病院	66%	93%	100%	94%	94%	91
地域がん診療連携拠点病院+国立がんセンター	66%	79%	91%	73%	85%	81
拠点病院以外の病院	70%	83%	90%	57%	84%	81
埼玉県全体	68%	81%	91%	66%	85%	81

表 6-4-2 適合率概要(体制の有無, 質問票 A)

	01状態認識		02介入		03共通認識	総合点数
	01-01希望・理解度・社会的状態	01-02医学的状態・治療方針	02-01医療リソース	02-02診療指針	03-01状態・介入の共有	
都道府県がん診療連携拠点病院	66%	88%	93%	85%	94%	88
地域がん診療連携拠点病院+国立がんセンター	58%	79%	87%	65%	79%	77
拠点病院以外の病院	76%	89%	90%	69%	85%	85
埼玉県全体	67%	84%	89%	68%	83%	81

表 6-4-3 適合率概要(体制の運用, 質問票 A)

	01状態認識		02介入		03共通認識	総合点数
	01-01希望・理解度・社会的状態	01-02医学的状態・治療方針	02-01医療リソース	02-02診療指針	03-01状態・介入の共有	
都道府県がん診療連携拠点病院	85%	96%	100%	90%	94%	94
地域がん診療連携拠点病院+国立がんセンター	80%	96%	96%	85%	90%	90
拠点病院以外の病院	80%	97%	94%	85%	87%	88
埼玉県全体	79%	97%	97%	85%	87%	90

表 6-4-3 適合率概要(体制の運用, 質問票 A)

	01状態認識		02介入		03共通認識	総合点数
	01-01希望・理解度・社会的状態	01-02医学的状態・治療方針	02-01医療リソース	02-02診療指針	03-01状態・介入の共有	
都道府県がん診療連携拠点病院	79%	93%	98%	87%	95%	92
地域がん診療連携拠点病院+国立がんセンター	72%	94%	90%	81%	89%	87
拠点病院以外の病院	71%	95%	90%	83%	85%	86
埼玉県全体	70%	96%	91%	83%	86%	87

1 小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業

- 令和4年度からの変更点
- 医療従事者向け研修会の開催

2 がん診療連携拠点病院等の指定要件見直し

- 新たな整備指針について

3 がんワンストップ電話相談（治療と仕事の両立支援）

- 現状について

4 がん教育

- 外部講師の育成・活用

5 アピアランスケア

- 医療従事者向け研修会の開催

6 小児・AYA世代の終末期の在宅療養生活支援

- 現状について